

家庭菜園相談室

今月のテーマ

一足先にトンネルを利用して根菜を播いてみよう!

立春を過ぎれば暖かい日も増えてくるものの、まだまだ露地で種まきをするのは難しい状況です。ただし、トンネルやマルチを使うことで通常よりも早く播種することが可能となります。今回は、トンネルを利用して直播きで栽培できるダイコンとコカブの栽培方法についてご紹介します(図①)。

図① 作型目安

	2月	3月	4月	5月	6月	
ダイコン つや風	●	●	■	■	■	● 播種 ■ 収穫
コカブ スワン	●	●	■	■	■	--- トンネル --- マルチ

ダイコン(アブラナ科)

栽培適性: pHは、5.5~6.5が良いが酸性にも強い。排水性や保水性が良く、肥沃で砂質がかった深い作土を好む。

連輪作: 2年ほどの輪作とする。連作下では、黒斑病やセンチュウ類が発生しやすい。

栽植密度: 畝幅120 cm 、条間45 cm の2条植え、株間30 cm 、畝高10 cm (水はけが悪い畑は20 cm)。

畑の準備: 播種の2週間前に苦土石灰80 g/m^2 を、植えつけの1週間前に化成肥料100 g/m^2 を施す。未熟堆肥は奇形根の原因となるため利用しない。

保温: 畝立後、穴あき黒マルチ(厚さ0.02 m 、幅95 cm ×2条×株間30 cm ×条間45 cm)を被覆し、播種後に厚さ0.05 m のビニールでトンネル被覆をする(図②)。トンネル内部が30 $^{\circ}\text{C}$ 以上になれば換気をする。保温効果が低下するものの手間をかけたくない場合は、穴あきビニールを利用しても良いが播種時期を少し遅らせる。

播種: 播種穴は深さ1~2 cm とし、1穴3粒まきとする。播種後2~3日で発芽するが、発芽するまでは土が乾かない程度で保つ必要がある。播種直後にトンネルをしてしまうため、被覆前にしっかりと灌水しておく。

間引き: 本葉2~3枚で2本立ちにし、本葉6~7枚で元気の良いもので1本立ちにする。

追肥: 1回目と2回目の間引き時に追肥(化成肥料30 g/m^2)を株元に施用する。

収穫: 外側の葉が垂れ、開いてきた時が収穫適期。

コカブ(アブラナ科)

栽培適性: pHは、5.5~7.0が良い。排水性や保水性が良く、肥沃な土壌を好む。乾燥に弱いが停滞水を嫌う。

連輪作: 2年ほどの輪作とする。アブラナ科共通の根こぶ病に注意する。

栽植密度: 畝幅100 cm 、条間15 cm の4条植え、畝高10 cm (水はけが悪い畑は20 cm)。

畑の準備: 植えつけの2週間前に苦土石灰80 g/m^2 と完熟たい肥1 kg/m^2 を施す。植えつけの1週間前に化成肥料100 g/m^2 を施す。

保温: 播種後に厚さ0.05 m のビニールでトンネル被覆をするが、マルチはなくてもよい。ダイコンと同様にトンネル内部が30 $^{\circ}\text{C}$ 以上になれば換気をする。

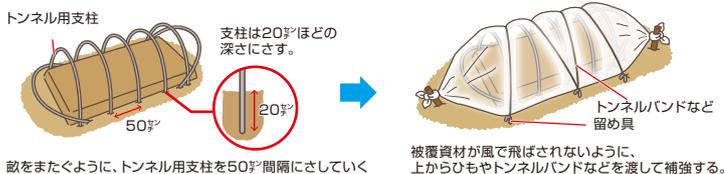
播種: 播種は、幅2 cm 、深さ1.5 cm ほどの溝を作り、1 cm 間隔のスジまきとする。播種後3~4日で発芽するが、発芽するまでは土が乾かないようにする必要がある。播種直後にトンネルをしてしまうため、被覆前にしっかりと灌水しておく。

間引き: 本葉1~2枚の頃に2~3 cm 間隔に、本葉2~3枚の頃に4~6 cm 間隔に、本葉5~6枚の頃に10 cm 間隔に間引きをする(図③)。

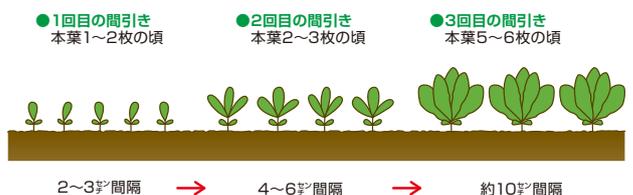
追肥: コカブの場合は、追肥は必要ない。中カブや大カブになると追肥が必要であり、1回目と2回目の間引き時に追肥(化成肥料20 g/m^2)を株元に施用する。

収穫: コカブは直径4~5 cm くらいを目安に収穫する。収穫が遅れるとすが入るだけでなく、割れやすいため早めに収穫する。

図② トンネルの設置の仕方



図③ コカブの間引き方



家庭菜園に関する相談は、TAC(タック)、支店営農経済担当者までご連絡ください。